

これから  
の研究者に  
大事な要素は  
「コミュニケーション力」



## Role Model 03

## 金 善南

大学院先端科学研究部助教

工学部（韓国）  
→ 大学院（修士課程）  
→ 大学院（博士課程）  
→ 大学（研究員）  
→ 大学教員

**Profile** きむ・そんむ 韓国出身。2003年釜慶大学応用化学工学部高分子工学専攻卒業。2008年熊本大学大学院自然科学研究科（博士後期課程）修了。熊本大学、九州大学での研究員を経て、2011年2月から現職。工学博士。現在は、アゾベンゼン基を有する高分子材料の合成と光応答特性に関する研究に取り組んでいる。私生活では2児の母。

突然巡ってきた  
日本留学への転機

韓国の大学時代に配属していた研究室には、日本に留学している先輩が多く、私もいつか日本で学びたいとその機会を狙っていました。転機が訪れたのは大学4年生の秋。韓国と日本の国際シンポジウムが熊本で開催され、その際に熊本大学の先生を紹介していただきました。いざ留学が実現できるとなったものの、入学書類の準備期間は約3ヶ月と急展開でした。実はTOEICなども受けておらず、「日本で学びたい」と漠然と思っていただけで具体的な準備をしていなかったため、大変な日々となりました。しかし、目標があると多忙な毎日も充実したものとなるものです。早朝に起きて一日中勉強することも、「疲れる」というより「楽しく」感じることができました。その時はまだ独身で自分のための自由な時間があったので、留学準備に邁進することができました。

留学期間は長くて2年と想着ていましたが、日本の生活は刺激や学びが多く、あっという間に過ぎた……という感じでした。その後、博士課程に行きたいと考えるようになり、研究者への道に進むことを決めました。

失敗を成功へと転機させるには  
一人で悩まずディスカッションを

私の専門は『高分子化学』というものです。高分子材料は生体適合性があり、軽量化・薄膜化に欠かせない材料であるため、医療分野から電子機器分野に至るまで、さまざまな分野で応用できる万能素材です。現在は、光応答性高分子材料を利用した新しい機能の開発を目指して研究しています。「光で光を操る」というタイトルが、とてもクール&キャッチーで気に入っています。光は遠隔操作が可能なスマートなエネルギーであり、その光を制御するのは最先端技術。時代の先端を担い、社会をよりよくするための意義ある研究だと思っています。しかし、実験はなかなかうまくいかず、分らないことばかりで落ち込むことも多いものです。想定外の結果が待っていることも多々ありますが、失敗は間違ったことではなく、「失敗も結果」と考えています。失敗の繰り返しは誰もが経験することですし、落ち込んでいた時間は無駄だと今では思うようになりました。うまくいかないときは、答えを出せないまま一人で悩まず、身近な先生や先輩、同僚の知識に頼ることも大事。実際に、毎回緊張して

しまう研究報告会も、会が終了すると達成感ですっきりとした気分になります。また、結果を説明することは自分で再度、課題や結果を見直す機会にもなります。周囲と積極的にディスカッションをすると、失敗から成功への転換が早くなるのではないかと思います。また、失敗の積み重ねにより見つかる想定外の答えがあるのも、この仕事の魅力です。

これからの研究者は  
コミュニケーション力が必要

また、ワークライフバランスを保つために、とくに家庭がある研究者にとっては、自分と子どもの体調管理が第一。



研究室にて

小さな子どもは病気がちなので、急な呼び出しに備えて、なるべく仕事を後回しにしないようにしています。限られた時間内を、それぞれ充実させようと常に心掛けています。

研究職は「自分の世界に入ってコツコツ研究をする」というイメージがあるかもしれませんが、実はコミュニケーションも大事。創造性開発技法としてブレインストーミングが評価されているように、アイデアを言葉に出して意見を交換することは、間違いなく効果的です。現在は特に他分野との協力や共同研究が求められているので、積極性を身に付け、人見知りを克服すると、研究がさらに楽しめるようになります。

## 気分転換は？

ちょっとしたお散歩。たまには、少しざわつくカフェに行って、一人でゆっくり楽しむスイーツとコーヒー。学会への参加も刺激的でリフレッシュできます。

心配する時間があれば、今できることをやる！